

飲水思源

町長 松岡 市郎

左甚五郎と福ネズミ!

今年はず(ね)年である。20〜30年ほど前まではネズミと一緒に生活していた記憶がある。寝静まると天井裏でネズミが駆けつこを始める音や、何かに噛(か)み付く音をよく聞いた。しかし最近はこのような機会も少なくなつたようだ。

ネズミに因(ちな)んだ言葉に「窮鼠(きゅううそ)猫を噛む」と言葉がある。各町村の財政事情等は窮地(窮鼠)の状況にあるが、国等に噛み付いても何も出ない。「窮鼠」を転じて「福ネズミ」と成すのは一人ひとりの尽力とプラス1の発想なのだ。

伝説的な話ではあるが、400年ほど前、江戸時代の第3代将軍徳川家光の時、江戸には左甚五郎と菊地藤五郎の2人の名工がいたそうである。それぞれの筋が日本一を主張し、將軍は世論に押されて日本一を決めることを決断し、ネズミを彫つてくように課題を与えた。

2人は、素晴らしい今にも動きだしそうなネズミを彫つてきた。將軍は作品を見たが甲乙つけ難たく、側近に相談をした。

側近は「プロに評価してもらって

は？」と提言し、「ではプロをここに連れて参れ」と將軍。何と連れて来たプロとは猫だつた。

「この猫が捕らえたネズミを彫つたものを日本一」と告げ、それぞれ作品を離して置き、猫を放した。

猫は一目散に藤五郎の作品に向かい噛み付いた。しかしすぐに捨て、次に甚五郎のネズミを目がけて走り出し、そのネズミをくわえて逃げ去つた。

甚五郎は將軍から日本一のお墨付きを得て、各地でネズミを彫つて地域の人々を幸せにした。このネズミを福ネズミと言つたそうである。

藤五郎は木で彫り、甚五郎は何とかつお節で彫つたそうである。左甚五郎、卓越した技術のみならず、先を読む力が備わつていたのである。

この話は実に愉快、明快で、ああそうかい(爽快)である。今年から町づくり計画ブライムタウン(最高の町)づくりが始まる。住民福祉(繁栄、安全・安心、幸福)づくりにもプラス1の発想が必要だ。それぞれが持っている力を全開し、「福ネズミ」の年にしたい。

短歌

子の年を七度重ねて日に三度食に恵まれ今日も生かされる
八十路の身今日あるこの喜びを姉をいささない父母待つ寺に
檜葉の木の雪けちらして餌台に二羽のカケスが羨つききり
義姉様より夫に着せよと縫い入れ半そで胸熱くなる
いつらに古桶を迎へて顧みる憂きことなべて思ひ出となり
凧よも静かに吹いとこれ街路樹電飾ふるえています
予定表書きこんでゆく下手な文字けれどしつかりわたしを縛る
娘が訪えばかあさんはと姿追う施設にありて音を恋う夫は
交差点へギン歩きでちよとチナマドの赤が突つてくるよ
母上の月命日を忘れをり僧侶来たればあわてて仏間に
思ひ出は懐かしくありそれぞれの遺影に向い厚く手合わす
若き日に内地旅行も幾度か吾住む此の地は安住の地なり
さりげなく滅びの千の風が吹くさふたさふたと夜瓜切りたり
松の木に雀を思ひしに早く帰りにチチチと鳴けよ

俳句

山眠る寝返り打つて又眠る
源水をかたとき止めず山眠る
かすかなる地熱を抱き山眠る
山眠る細胞の奥まで眠りたし
ライト下げ行き交う人待つ除雪車よ
しがらみを断ち切る勇氣山眠る
眠る山肩に野性の動きあり
来る春の夢見給ふや山眠る
集落を抱きしままに山眠る
おもむろに山は眠りにつきにけり
鉄瓶のたぎる音やみて山眠る

宮坂 紫雲	青野 公花	小林 露葉	松山 蓉子	澤田 久美子	石澤 清宏	山口 佐知子	杉山 梨つ	徳光 吐苦	杉山 深雪	秋山 深雪	尾池 真沙子	井山 一文	岩田 ふじえ	矢沢 ますえ	清水 チヨ	笹田 富士子	嶋崎 ミエ	宮坂 敬子	中田 治子	瓜生 昭枝	永江 栄子	岡澤 チズ子	那須 喜美	松倉 和子
-------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	--------	--------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------

文化交流館 新刊図書・ビデオ 案内

貸し出し期間は、図書は1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間です。返却期間を守りましょう(夜間返却窓口もご利用ください)。



ハリリー・ポッター
(映画・DVD)
ワーナー・ホーム・ビデオ
シリーズ第5章。遂に魔法戦争勃発!
ヴォルデモート脚が復活するも、
それを信じない魔法省はホグワース
を監視するため防衛省の新任教師を
送り込む。しかし防衛省は迫り来る
闇の魔術にあまりにも不十分。ハリリーは、
来る魔法戦争に備えるべく秘密の訓練を開始する。(138分)



いつまでも
(絵本)
作: アンナ・ビンヤタロ/訳:
たわら まち/刊: 主婦の友社
森のなかで、こくまのオリがおか
あさんにたずねます。「おかあさん
は、いつまでぼくのおかあさん
なの?」おかあさんは「いつまでも」と、こたえます。でも
オリには「いつまでも」がどんなかんじなのかわからなくて
…。親子でいることの幸せをかみしめられる幸福な絵本。



伝説は生きている
(一般書)
著: 高田紀子/刊: 高田紀子
道内各地に伝わる不思議なお話や言
い伝え。移り変わりの流れがだんだ
んと加速してゆく現代に、語り継い
でいかなければ忘れ去られてしま
う郷土に根付いた伝説を、自分の足で訪ね、丹念に記録し、写真
に収めることをライフワークとしてきた札幌の主婦がまとめた
写真集。